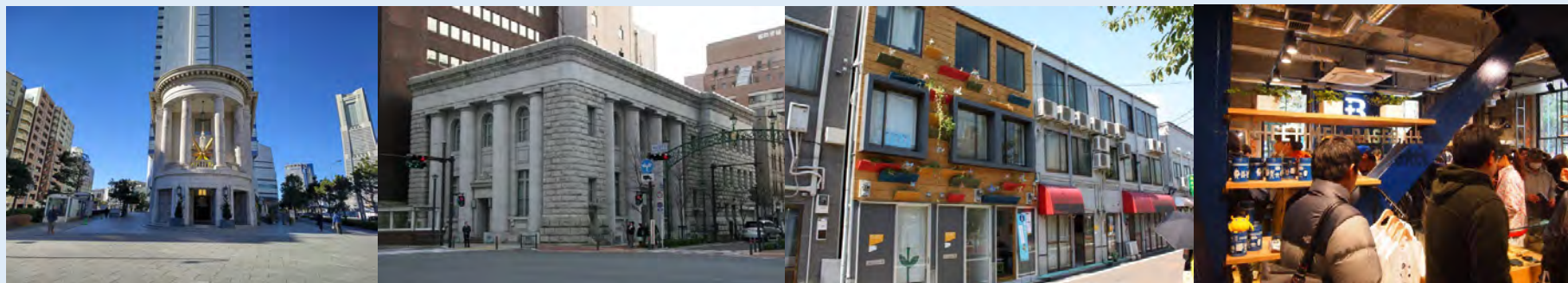


エリアリノベーションに向けて



2026/06/19

野原 卓

横浜国立大学大学院
都市イノベーション研究院 教授

前提 1

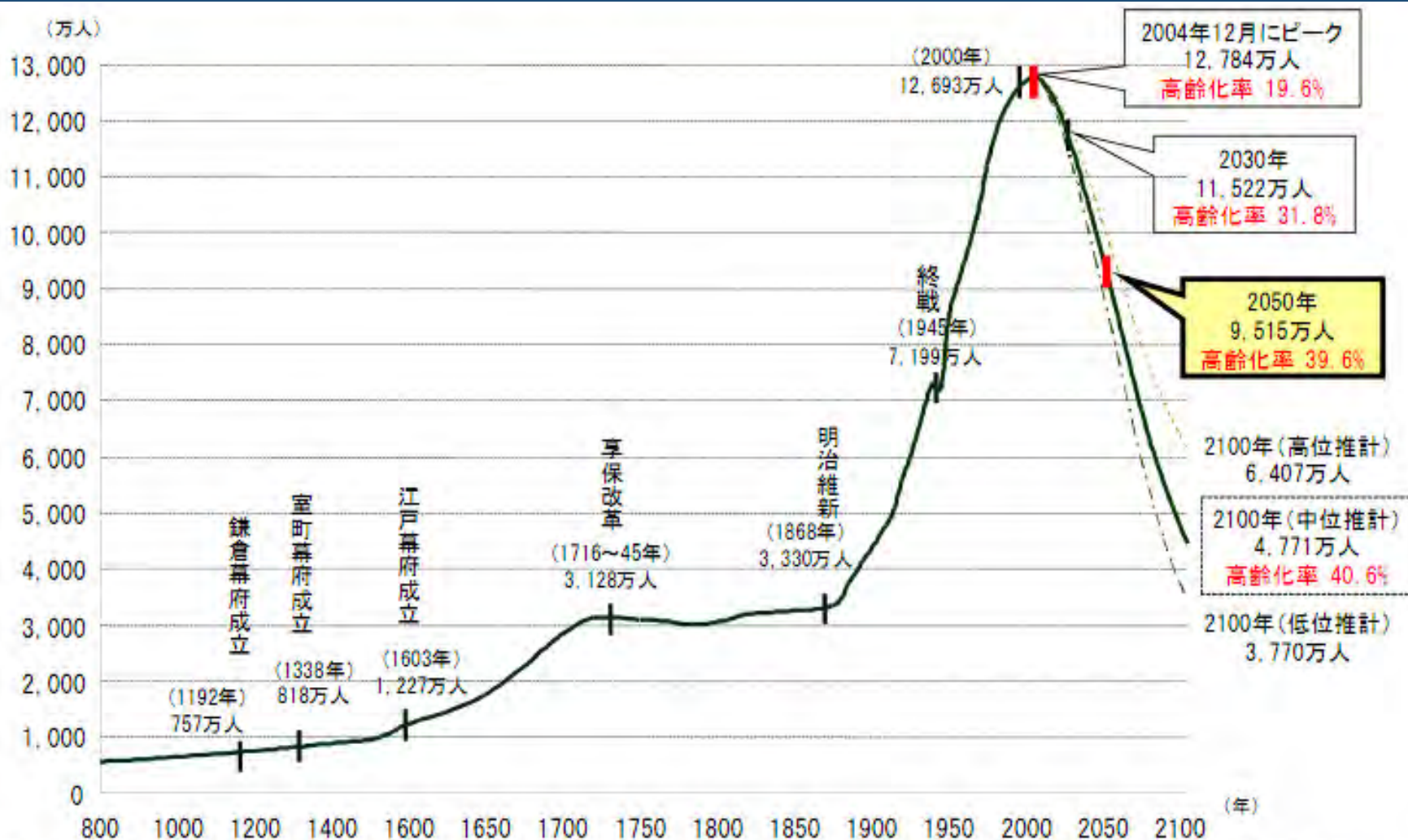
縮減時代の構造（思考） 転換

前提：日本初の「人口減少カーブ(ベクトル)」

人口が少ないことが問題ではなく、今まで経験したことのない減少カーブ突入が課題

⇒人口が減少しても豊かな幸せな社会構造をどのようにして作れるのか？

⇒人口のとりあいレースに乗らないようにする。



(出典)総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、同「平成12年及び17年国勢調査結果による補間推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)をもとに、国土交通省国土計画局作成

人はいる？いない？人々の活動と移動の現状

パーソントリップ調査に基づく、人々の移動と外出の様子

一日一人当たりのトリップ数

年齢（5歳）階層別外出率の様子

(1) 外出率と1人1日当たりのトリップ数は、調査開始以来で最低

○外出率は76.6%で平成20年から9.8ポイント減少、1人1日当たりのトリップ数は2.61トリップ/人で0.23トリップ/人減少しました。

○いずれも過去最低となり、前回調査時からの変動幅は最も大きくなりました。

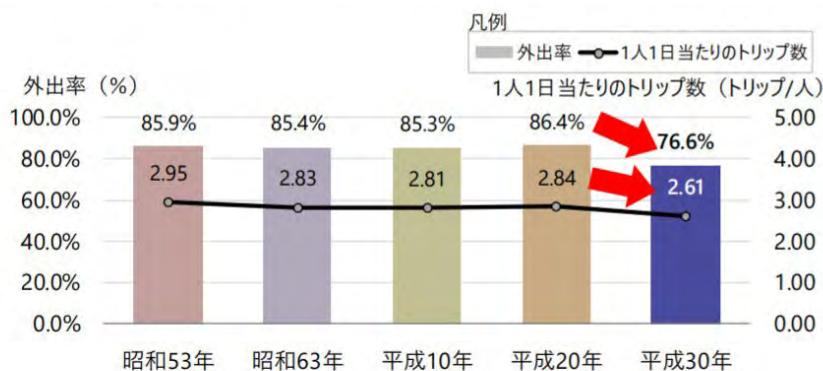


図2 外出率及び1人1日当たりのトリップ数の推移

○すべての年齢階層で外出率が減少し、特に20代から60代の各層では、外出率が平成20年と比較して約1割減少しました。

○40歳以上の外出率はこれまで増加傾向にありましたが、今回の調査で減少に転じました。

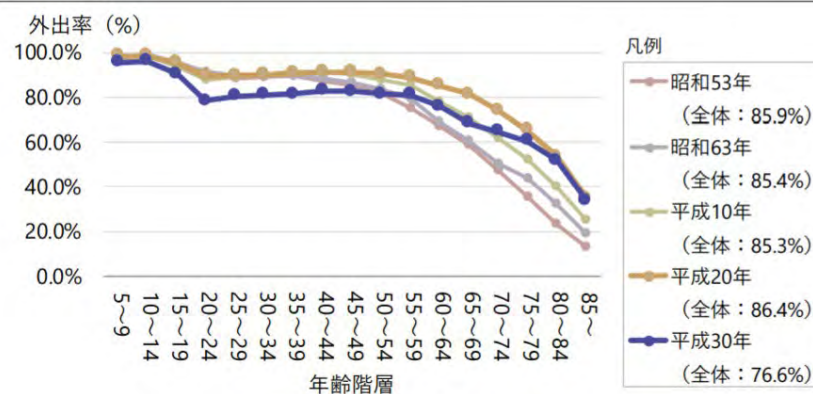


図3 年齢階層別の外出率の推移

⇒一人当たりのトリップ数が減少している

出典：東京都市圏交通計画協議会ホームページより

⇒外出率も平成20年より年代に関わらず減少している（高齢者は減りが少ない）

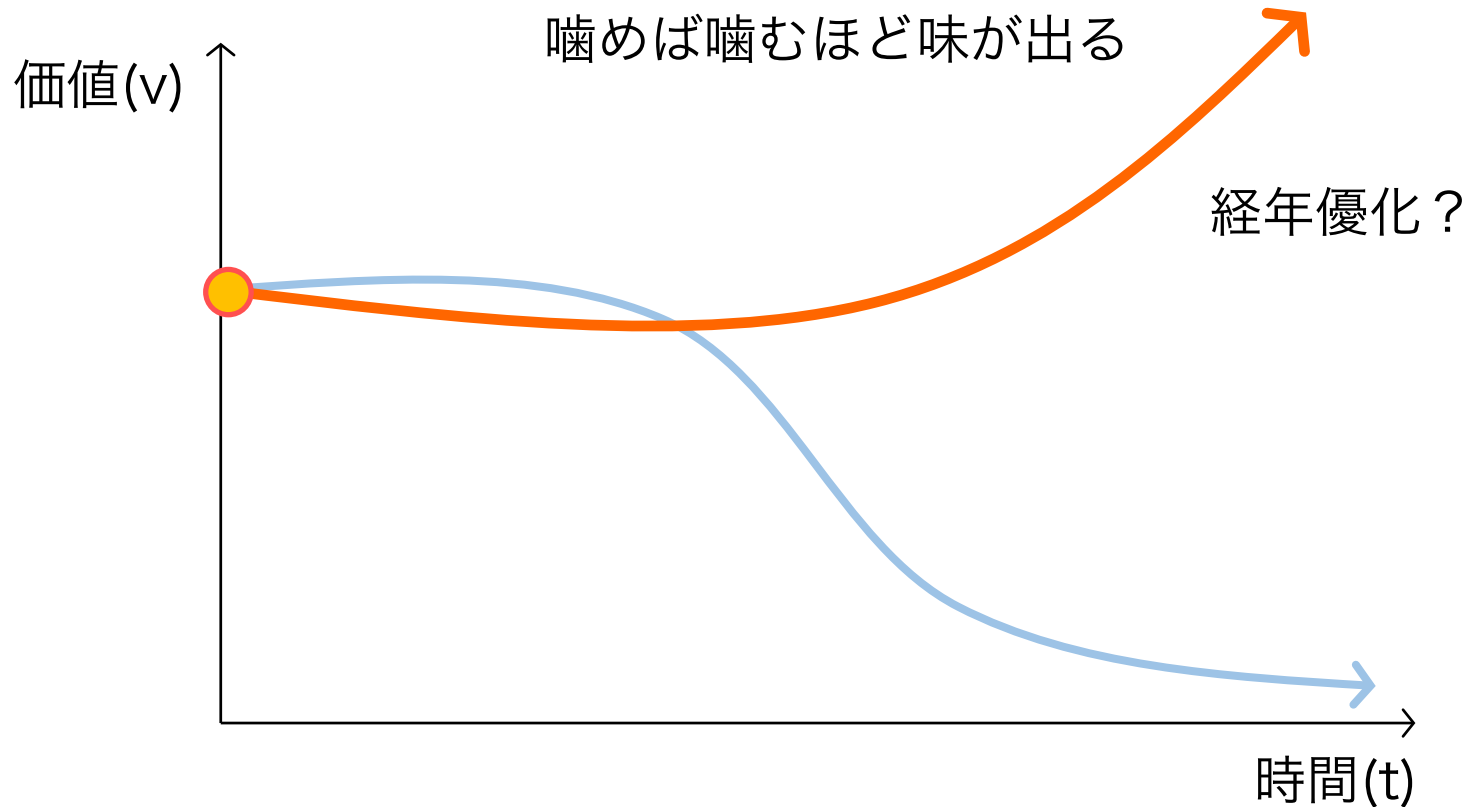
⇒人々が外出・移動しなくなっている（活動量の低下）

人口の減少度合いより、衰退の実態の方が激しい。

人はいないわけではなく、こもっているか、違うところにいるか。

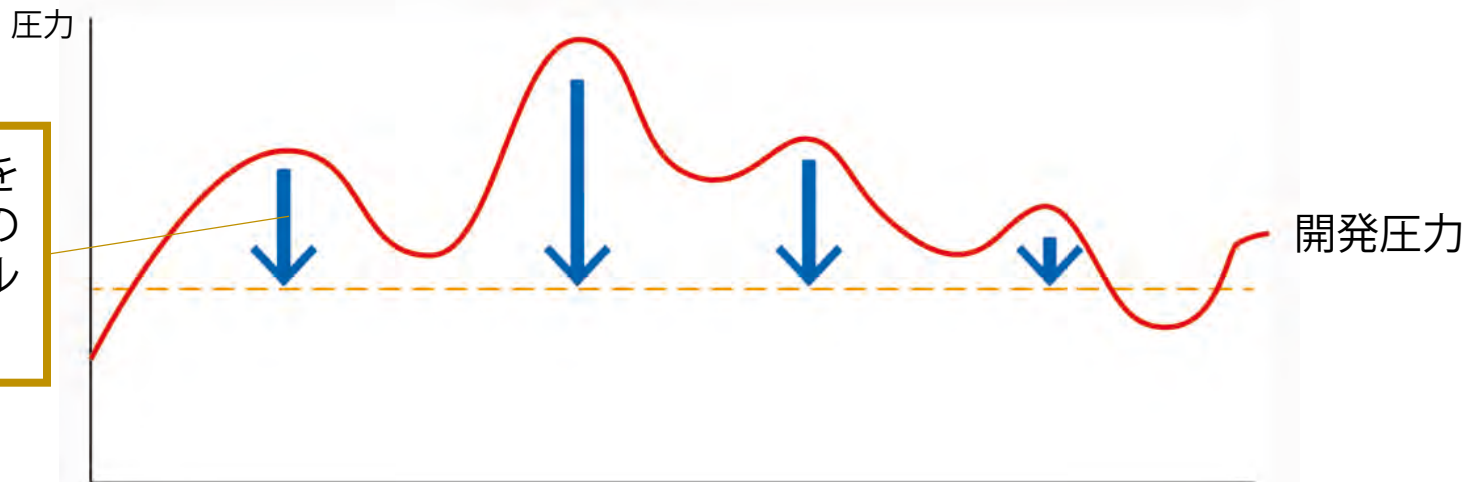
イベントやれば人は来る（しかしそれは日常にはならない）。

都市資産【Stock】の時間的価値（経年優化？）

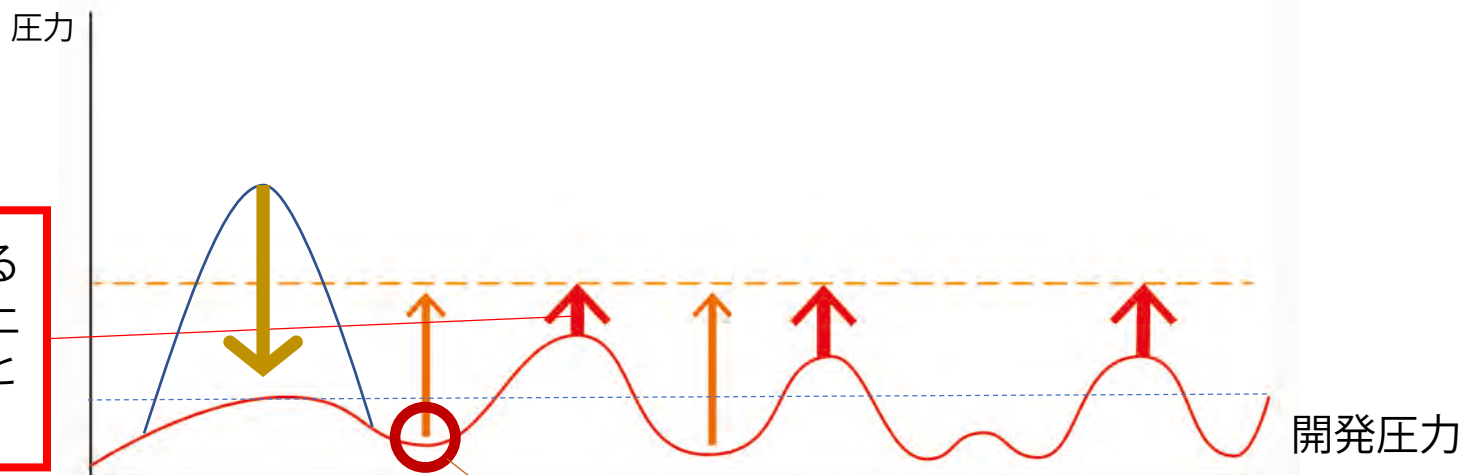


一般には、資産は、時間とともに古くなってゆくと、価値が失われてゆく。
しかし、価値を時間とともに増やしてゆく、時間が経つと価値が上がる
仕組みづくりが求められている。

都市マネジメントの役割の変化



高度経済成長期の都市計画の役割

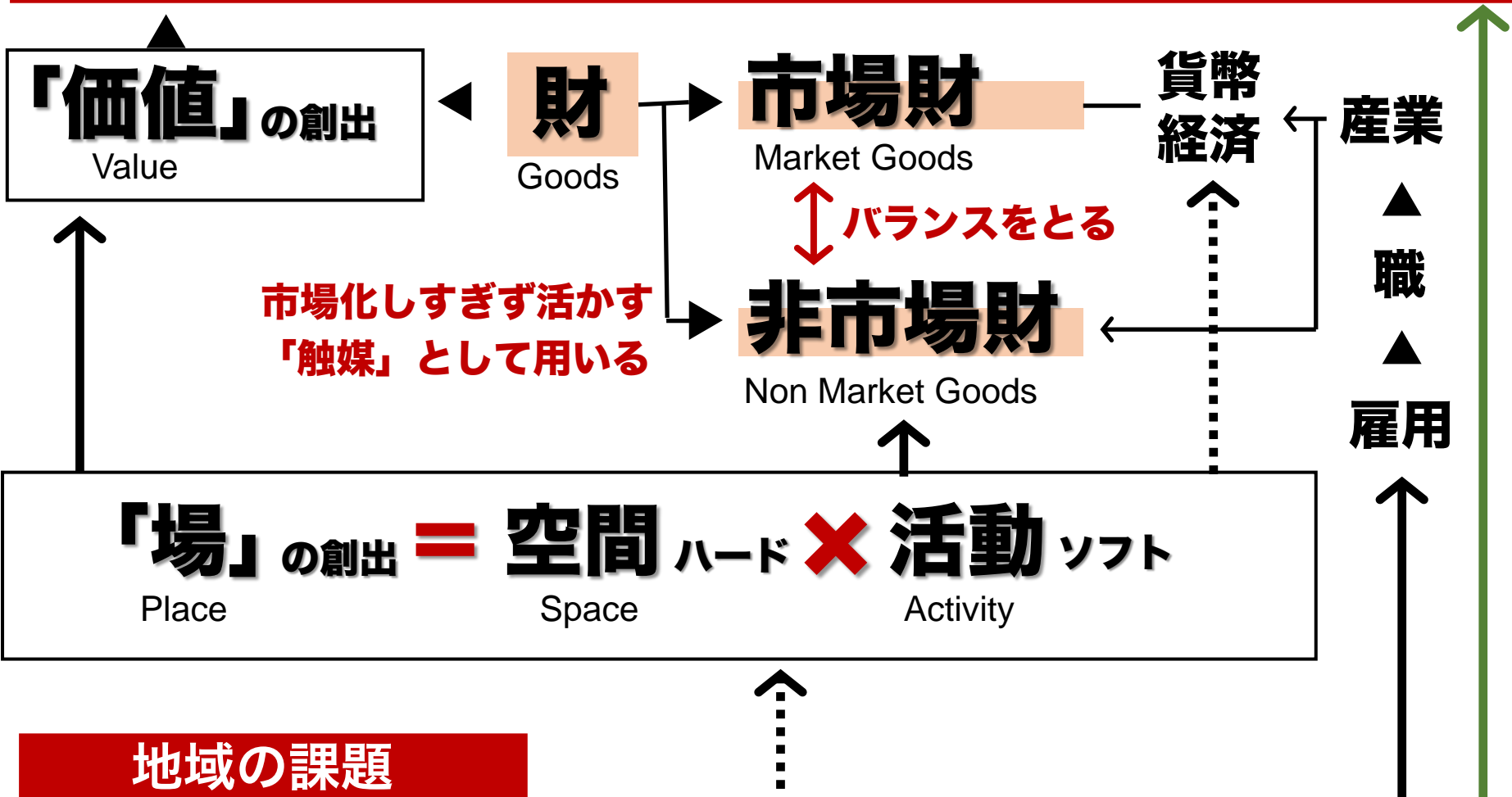


ギャップをレバレッジしつつ、外部不経済も抑える

縮減時代の都市計画の役割

都市政策の目標

都市を豊かにする / 都市**総幸福**の向上



地域の課題

人口減少？ / 少子高齢化？ / 持続性？

エリアは動か（け）ない

ハイブリッド・アーバニズム

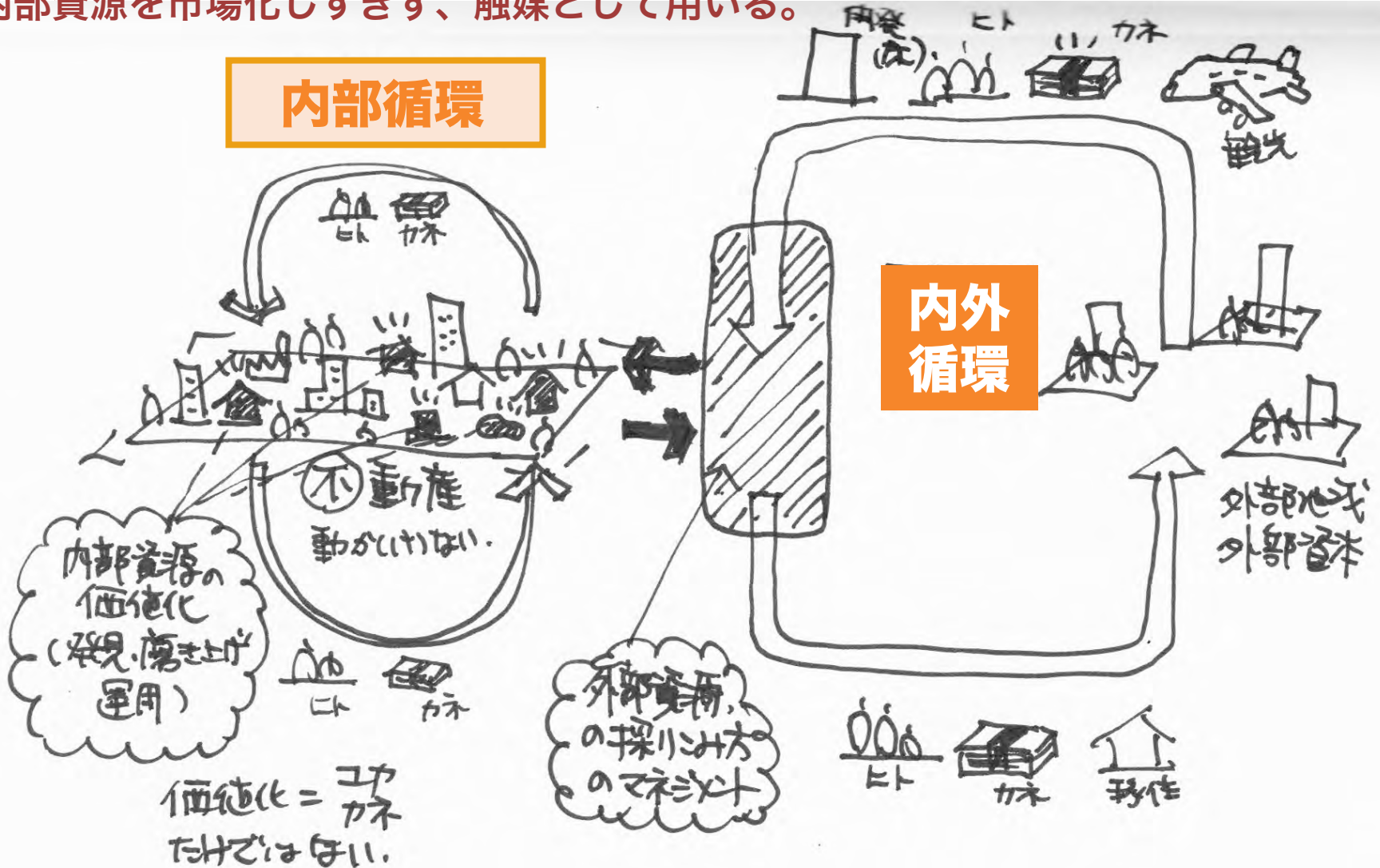
地域は、動くこと、逃げることはできない。

外部資源の採りこみと外部流出の「マネジメント」が重要。

内部資源の価値化（資源の発見（見立て）・磨き上げ・運用）の意義。

内部資源を市場化しすぎず、触媒として用いる。

内部循環



手法1

資源とその手順を考える。

ツボ と プロセス

アーバンデザイン・5つの視点

前田英寿・遠藤新・野原卓・阿部大輔・黒瀬武史ほか (2026) 『アーバンデザインノート』 彰国社 より

マクロ（地域）の最適解とミクロ（敷地等）の最適解をつなぐ「アーバンデザイン」に重要な5つの視点を提示する。



【視点1】 プロセスとツボ

実施する上でツボとなる重要なポイントや変曲点を見抜き、どんな手順、どんな戦略でそのツボを押したのか？

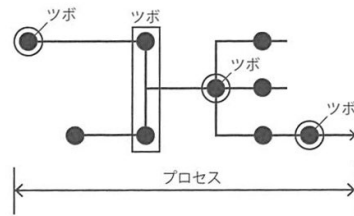


図0.5 | 視点①プロセスとツボ

【視点2】 資源の発見と運用

ツボの素となる資源を都市の中からどのように掘り起こし、導き出し、実践できるものとしたのか？

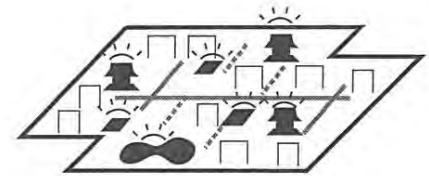
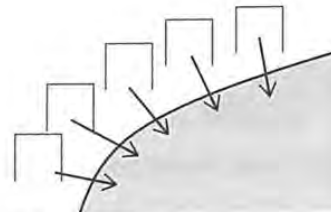


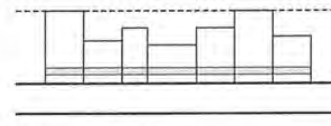
図0.6 | 視点② 資源の発見と運用

【視点3】 空間の統合

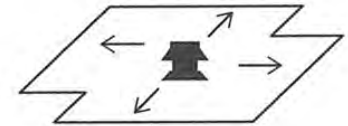
都市空間をバラバラに扱うのではなく、主体の異なるそれぞれの空間をどのように紡いで、エリア全体の価値向上に寄与する場を生み出したのか。



①ウォーターフロント型



②街路・街並み型



③ランドマーク型

図0.8 | 視点③ 空間の統合における類型

【視点4】 実践と運動

単に計画を用意し、プロジェクトを遂行するだけでなく、どのような形でそれぞれが主体的に関わり、汗をかいて動き、豊かな場所を生み出すための運動を浸透させたか

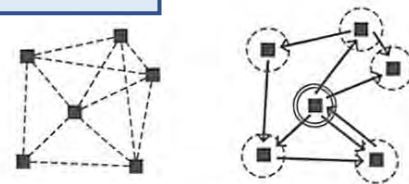


図0.10 | 視点④ 実践と運動
連携(左)と波及(右)

【視点5】 主体と職能

どのような人がどのような技術や役割を担いながら実践し、主体同士はどんな役割や関係の中で実践するに至ったのか？

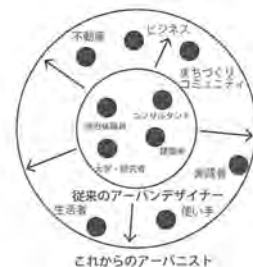


図0.11 | 視点⑤ 主体と職能
専門家の立ち位置

資源の発見と運用 + 読み解き

一見すると何の変哲もないまちの場合も、**読み解き**を加えることによって、地域の重要な**ツボ・資源**となりうる可能性がある。読み解きによる**資源の発見**と、発見した資源をどのようにして**豊かさに接続する運用**ができるのか？

柏市柏の葉キャンパス

都市の裏側を表に仕立てる

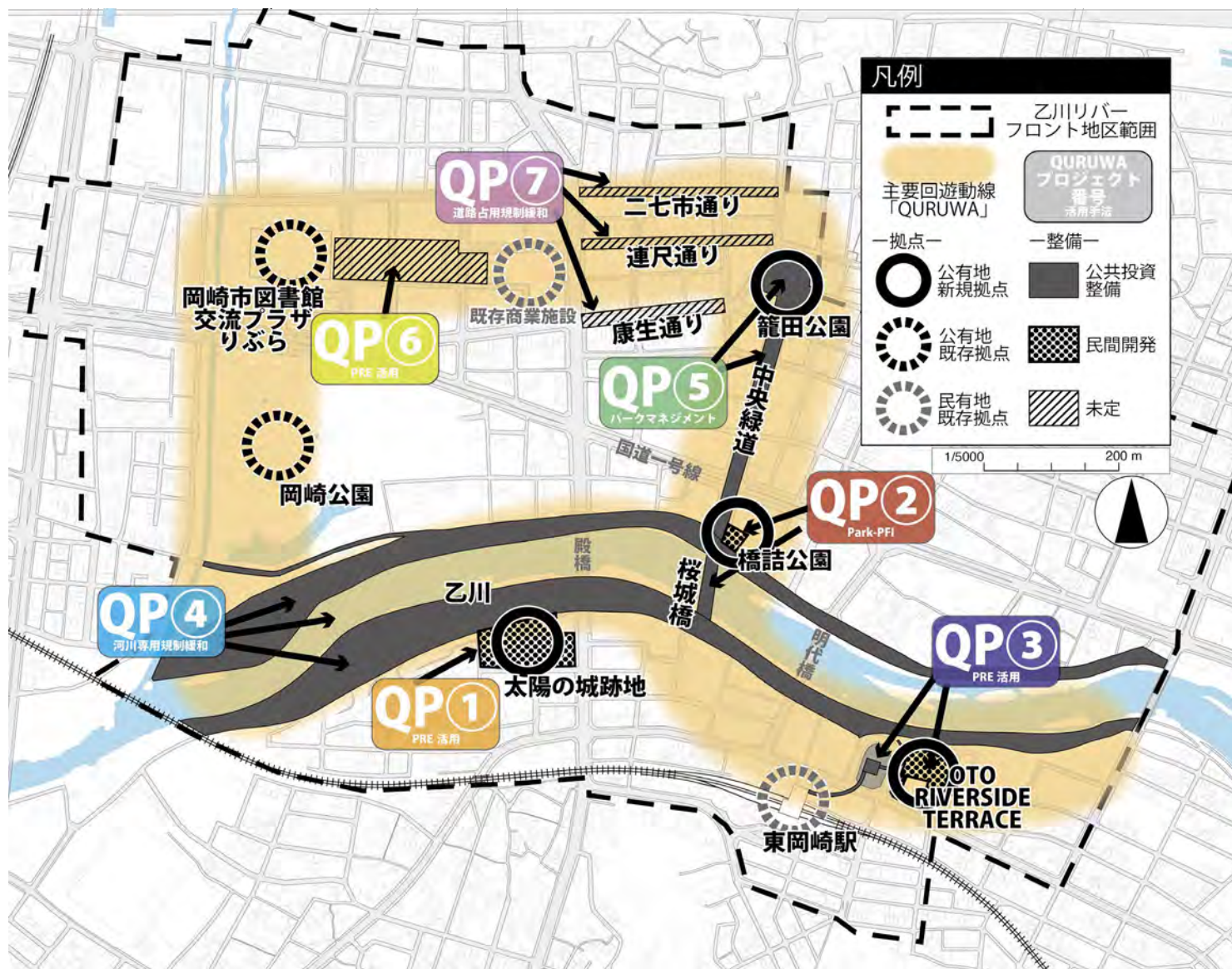
地域資源は「**触媒**」となる。資源を発見し運用することで**周辺の不動産が動き出す**。
(資源自体を市場化しない)



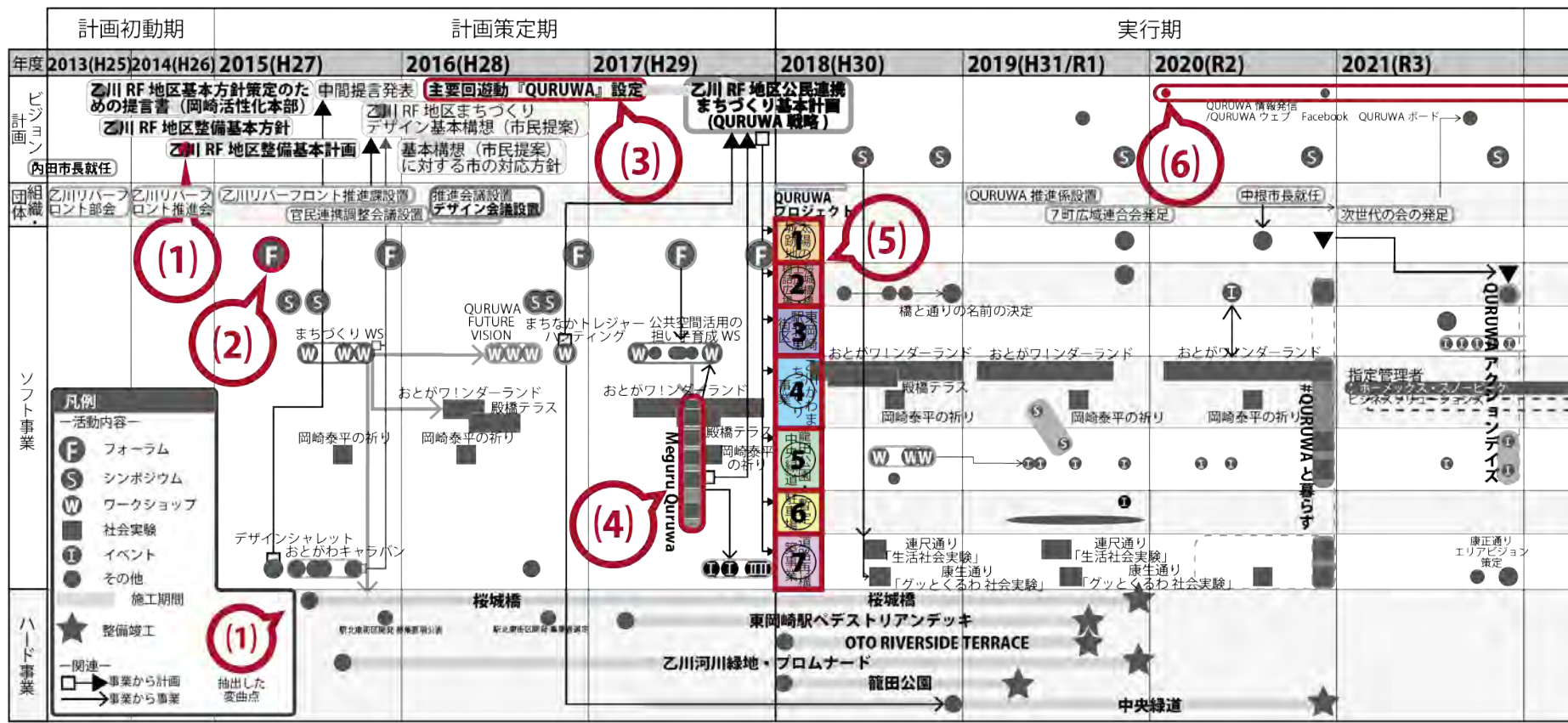
2号調整池⇒ アクアテラス (柏の葉キャンパス)

プロセスとツボ：QURUWA戦略とプロジェクト手順（岡崎市）

中心市街地活性化が目的（かつてまちなか再開発を行ったがうまくいかず）＋りぶら＋伊賀川整備
 ⇒作戦変更：東岡崎駅前⇒乙川整備⇒人道橋（桜城橋）⇒中央緑道⇒籠田公園⇒まちなかへ



プロセスとツボ：QURUWA戦略とプロジェクト手順（岡崎市）



出典：黒川春香(2024)「ウォーカブルなまちづくりにおける公共空間群の連携戦略に関する研究」横浜国立大学修士論文

- ⇒ (1)どこから進めるかを吟味する（ツボの選定）
- ⇒ (2)自由に動ける体制づくり・立て付けと声かけ（人のツボ押し）
- ⇒ (3)わかりやすさ・巻き込みやすさ（Q）
- ⇒ (4)同時多発的に推進して、共有共感を集める
- ⇒ (5)民間を含めた実施者の巻き込みを図る
- ⇒ (6)メディア戦略の展開を検討する

プロセスとツボ：QURUWA戦略とプロジェクト手順（岡崎市）

それぞれの事業が一つの目標を共有しながら、連携してまちを豊かにする。



東岡崎駅付近



乙川



桜城端（人道橋）



まちなか



籠田公園



中央緑道



まちなかの空地



公園沿いのカフェ



中央緑道沿い

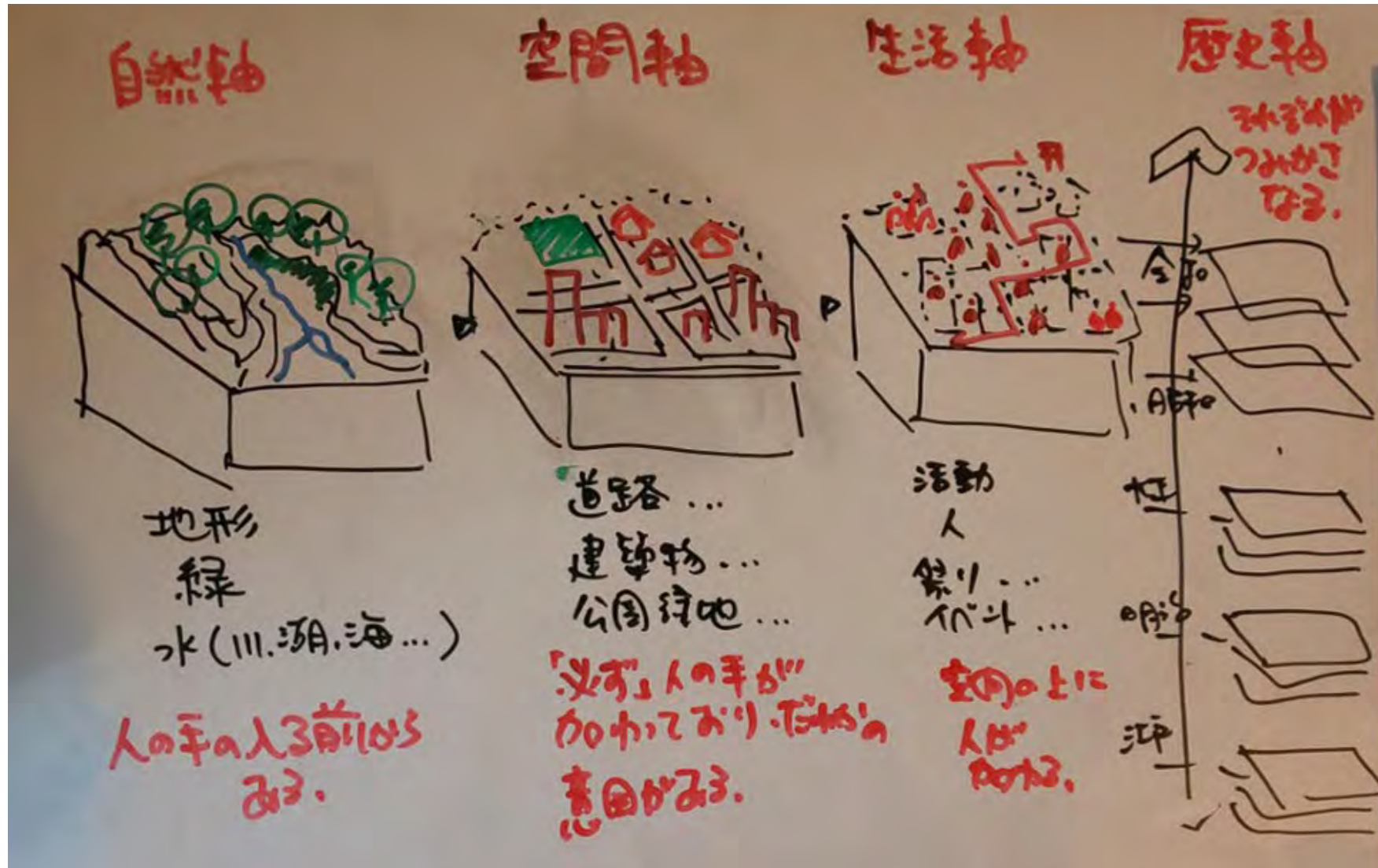
手法1

ツボ の見つけ方

地域性と地域資源をどのように読み取ることができるのか

都市のストラクチャーとメカニズム

都市空間を讀解する 4 軸【自然軸・空間軸・生活軸・歴史軸】



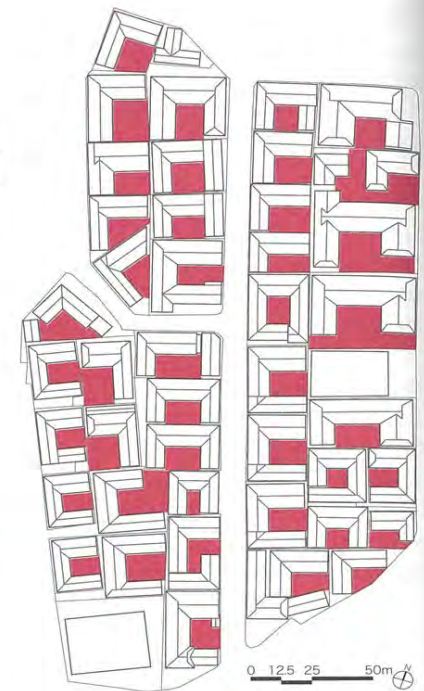
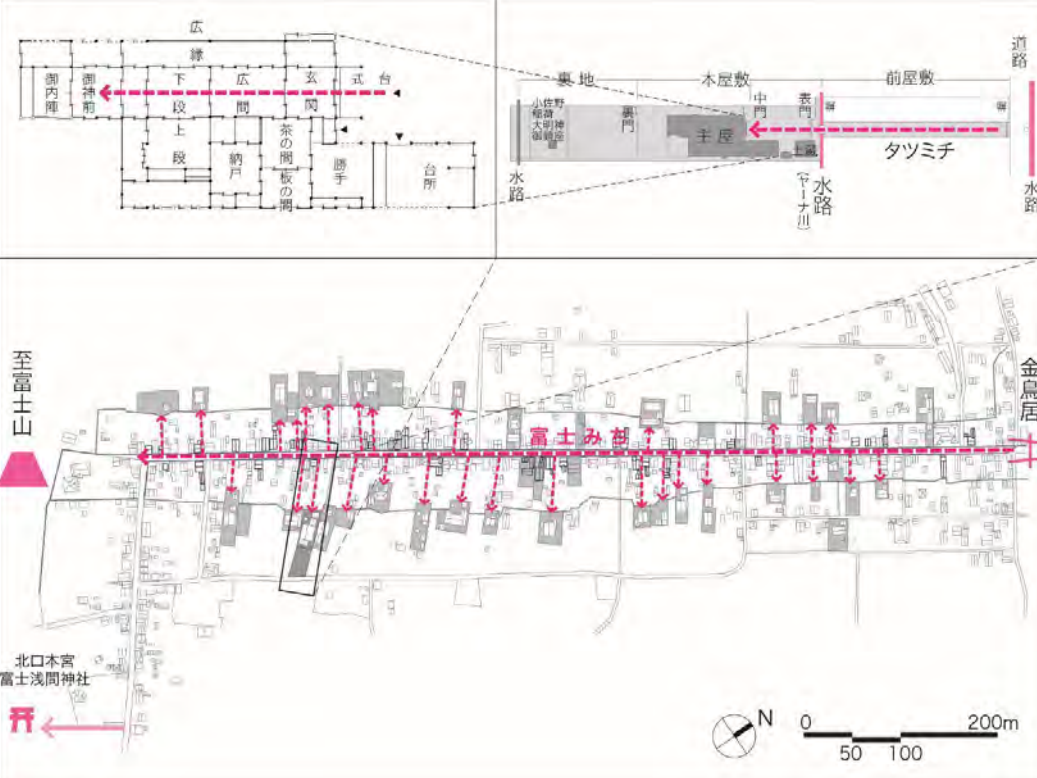
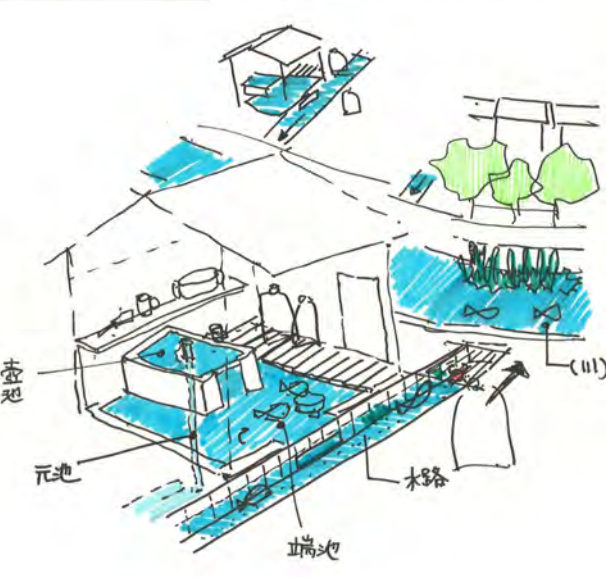
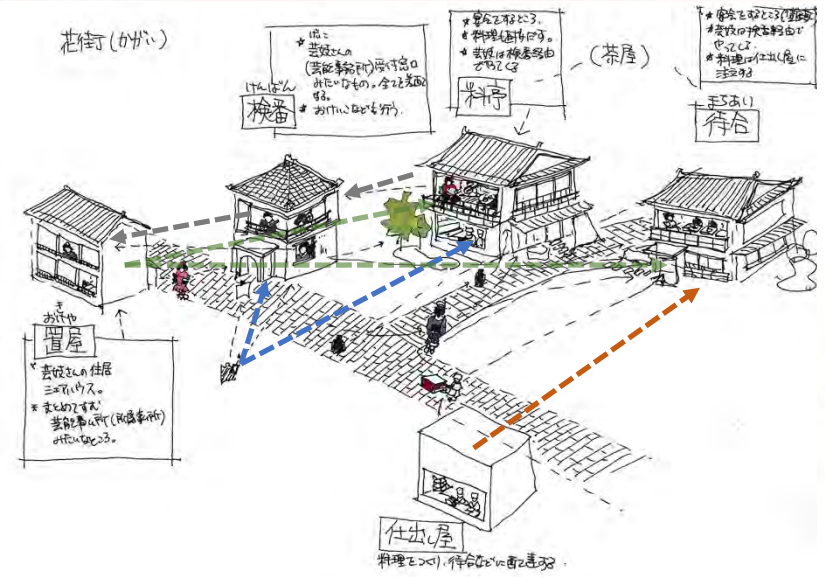


図0-4 京都の町家と中庭の関係(『図集日本都市史』に基づき作図) 図0-5 ソウル・北村の韓屋(ソウル市庁資料に基づき作図)
 どちらも中庭が都市住宅の環境を保障する機能を果たしているが、日本の町屋(左)では中庭は私的空間として通り沿いの公的空間と対比をなしているが、ソウルの韓屋(右)では、主要な開口部は全て中庭に開いている。



各都市空間の生成メカニズムとストラクチャーをつかむ：持続的都市空間の基盤



蔵ずまいのまち、喜多方。



北会津盆地と名峰（飯豊・磐梯等）
約40,000人（2026年現在）の人口
約4100棟（当時）の蔵



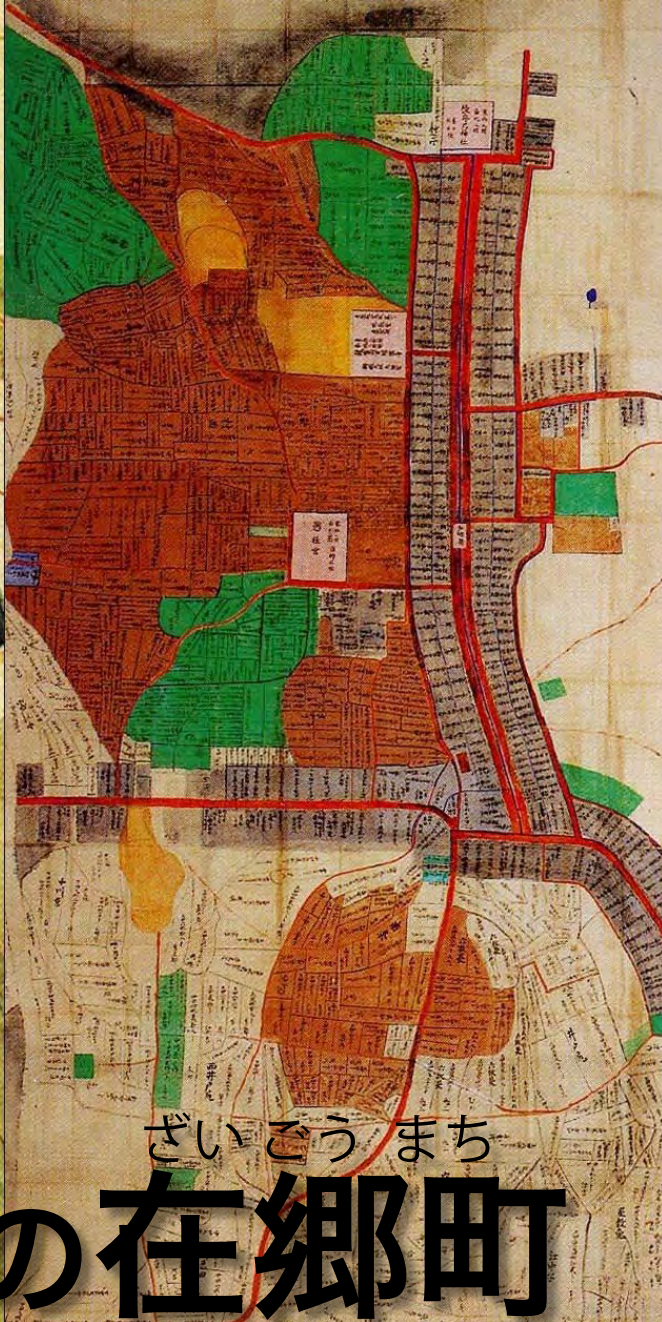
喜多方ラーメンを支える「水」。

喜多方の水源、飯豊連峰からの水。

小荒井
(1564-)



小田付
(1582-)



川を挟んで双子の在郷町

「町立て」 (敷地分割) と「(定期)市」。

明治13年 小荒井の大火。蔵が残る。



防火建築として再認識される蔵

お店の大切な商売道具・家財道具を守る



酒・味噌・醤油を仕込む・寝かす。



醸造蔵。

麹菌の活躍・温度や湿度を調節する。

釉薬のかかった温度の低い焼き方。



喜多方のレンガ蔵と登り窯

明治期のインフラ(橋脚) 整備) のための登り窯と煉瓦造成。



文化としての蔵。



座敷蔵（ざしきくら）。



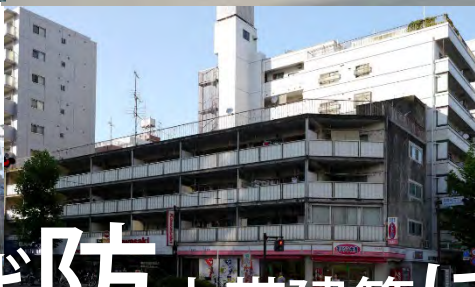
「男四十にして蔵の一つも建てられないのは一人前ではない。」

アーバンフローラ：都市の系を読み解く



蔵をとりまく仲間たち。

蔵は単体の歴史的資源なのではなく、地形・気候・生業・産業・文化・生活と一体となった象徴としての蔵である。



犬も歩けば防火帯建築にあたる横浜。消失も多い。

戦災復興都市・横浜：中庭型都市構造を目指して



横浜市防火建築帯造成状況図 (1958)

都市の再開発システムの変遷(1960-70年代)



【オースマンの手法】

- 買収と再開発
- 超過収用システム
(拡幅に必要な部分だけでなく、後ろまでまとめて買い取り、再整備したあとにまたそれを分譲するというシステム)
- 建築外輪線 (enverope) と街並みづくり

オースマンの
パリ大改造
hausmanisation

【耐火建築促進法】 1952-61

- 不燃化された (RC造) 集合建築の帯 (防火建築帯) に補助。
- 沿道から11mまでに補助のかかるシステム。敷地は以前のままで建築が集合して作られるが、敷地境界がそのまま柱のスパンになる。
- 4階までが補助対象。1・2階に権利床、上階を公社等に賃貸し (住宅として整備し)、整備費を得るシステム (住宅金融公庫の融資モデル)

耐火建築促進法
防災建築街区造成法

防火建築帯

【区分所有法】 1962-

- 区分所有の概念

【都市再開発法】 1969-

- ⇒ 市街地再開発事業
- 土地集合と区分所有
- 権利変換の概念
- 権利床と保留床

市街地造成法
区分所有法
坂出人工土地
岡山市表町
都市再開発法

再開発

【防災建築街区造成法】 1961-68

- ⇒ 線ではなく街区全体 (面) に及ぶもの
防災建築街区造成事業
- 【市街地改造法】 1961-68
⇒ 公共施設 (道路・駅前広場等) 捻出
市街地改造事業

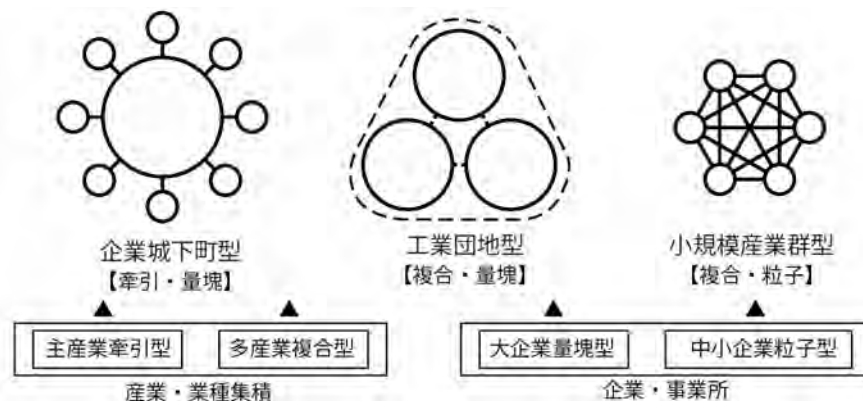
防災建築街区



産業テリトリーオのタイポロジー

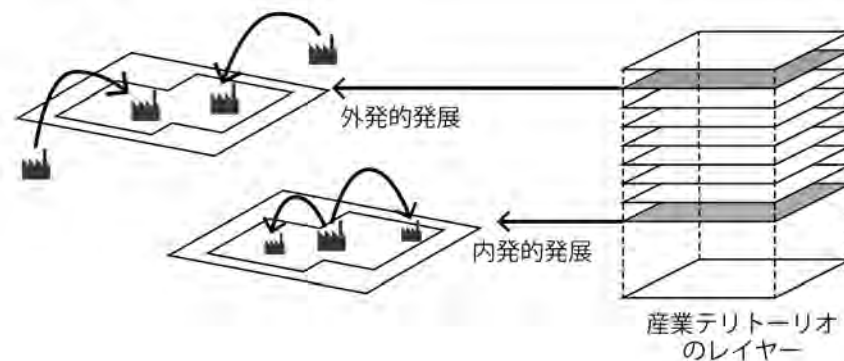
(3) 産業空間の集積形態

↑ 規模（大規模型／中小規模型）と多様性（単企業型／多企業多業種型）と牽引性（企業城下町型／フラット型）などを通じた集積の形態



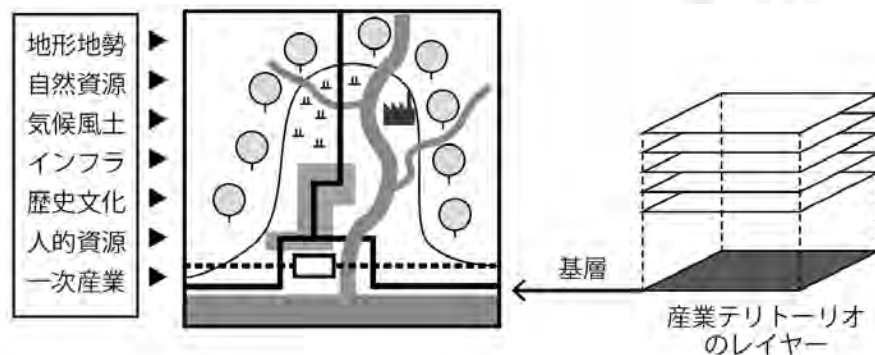
(2) 産業の変遷と積層

↑ 基層に基づく内発的発展／新しい歴史をつくる外発的発展、それらの時間的変遷および積層による産業都市の発展プロセスの違い。




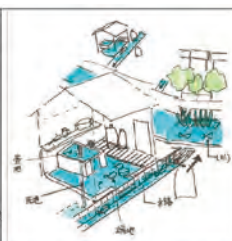
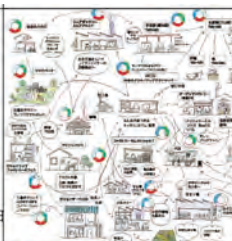


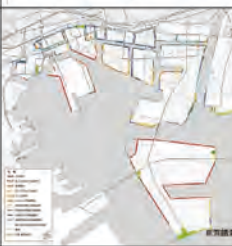


(1) 産業テリトリーオの基層

産業テリトリーオのつながりを生む素となる地域の基層（地形・自然・風土・インフラ・歴史文化・人的資源等）とこれをどのように引き出して産業に役立てているか。



産業テリトリーオのタイポロジー

- (1) 地場産業継承型 : 伝統工芸や地場産業を基に粒子状に発展する
- (2) 地形地勢基盤型 : 地形地勢を始めとした地域の根底を産業に活かす
- (3) 企業城下町推移型 : 一つの都市で発展した企業が生活も含めて構築する
- (4) 産業地帯・団地発展型 : 専用の産業空間が政策・事業的に用意される
- (5) 粒子製造業群再編型 : 小規模製造業等が集積しつつ、新しい再編の動き
- (6) 知的・創造産業融合型 : 知的集約型・創造系産業と人的資本の集積
- (7) 他次産業連携型 : 1次-2次-3次産業の融合と地域ストックの活用
- (8) その他・複合型 : 様々な関連産業が連動して地域産業を形成

<p>(1) 地場産業継承型 伝統工芸や地場産業の資源や空間、ネットワークを現代的に発展させる。</p> <p>① 地形地勢自然文化と密接に関わる形で産業が成長する ② 内発的發展・伝統的な技術や手法から発展 ③ 小さな伝統産業や関連産業による多産業複合型・中小企業粒子型</p> <p>【例：窯業・漆物・和紙等の伝統産業、京都西陣織と田の字地区など】</p> 	<p>(2) 地形地勢基盤型 地形地勢、水系や山林、土壌、文化など地域の基盤が基盤となる産業発展</p> <p>① 地形地勢・水系・山林資源・歴史文化などを基盤とした産業の発展 ② 内発的發展・伝統的な技術や手法から発展+流通による発展 ③ 多産業複合型・中小企業粒子型もしくは大規模産業型</p> <p>【例：河川沿い・水を必要とする産業群など】</p> 	<p>(5) 粒子製造業群再編型 小規模製造業集積の街が、新たな刺激を受けて発展的に再編される産業都市</p> <p>① 地形地勢自然文化を活かしながら、新たな要素を加える。 ② 内発的發展・伝統的な技術や手法を基に新たな要素が乗る ③ 小さな産業による多産業複合型・中小企業粒子型</p> <p>【例：大都市近郊製造業（大田区・墨田区・台東区）など】</p> 	<p>(6) 知的・創造産業融合型 先端産業・DX・クリエイティブや人的資源などを核に知的集約型の産業集積</p> <p>① 不動産資本の状況、人的資本、社会関係資本、都市構造など ② 内発的發展を中心に小さな外発的發展が要因となるときもある ③ 先端産業・スタートアップなどによる多産業複合型・中小企業粒子型</p> <p>【例：創造都市施策・など】</p> 
<p>(3) 企業城下町推移型 少数の中心企業が地域に根つき、生活都市空間も形成。産業自体は推移も。</p> <p>① 牽引企業が産業から生活まで一体的に用意する ② 外発的な要因から定着することで内発的發展へと推移 ③ 主産業牽引型・大規模量塊型（+周辺に関連小規模産業）</p> <p>【例：宇部（石炭→セメント→化学）・豊田（自動織機→自動車関連）】</p> 	<p>(4) 産業地帯・団地発展型 国家施策・外発的動機により工業空間が大規模に用意される。後背地も整備</p> <p>① 地形地勢を基盤としつつも、新たな基盤形成がなされる ② 政策等に伴う外発的發展が中心 ③ 業種集積型・多産業複合型および大規模量塊型</p> <p>【例：臨海工業地帯・新産業都市・テクノポリス・臨空タウンなど】</p> 	<p>(7) 他次産業連携型 農林水産業・サービス業、地域資源や集落などが結びつく地方型の産業創造</p> <p>① 地形地勢自然文化と密接に関わる形で産業が成長する ② 内発的發展・伝統的な技術や手法から発展 ③ 小さな伝統産業や関連産業による多産業複合型・中小企業粒子型</p> <p>【例：徳島県神山町での起業 / 地方都市集落における人的+産業集積】</p> 	<p>(8) その他複合型</p> <p>(1)から(7)が縮合、もしくは上記に分類されない地域独自の産業展開</p> <p>【例：多数の産業が共存する都市（富山市・高知市）など】</p> 

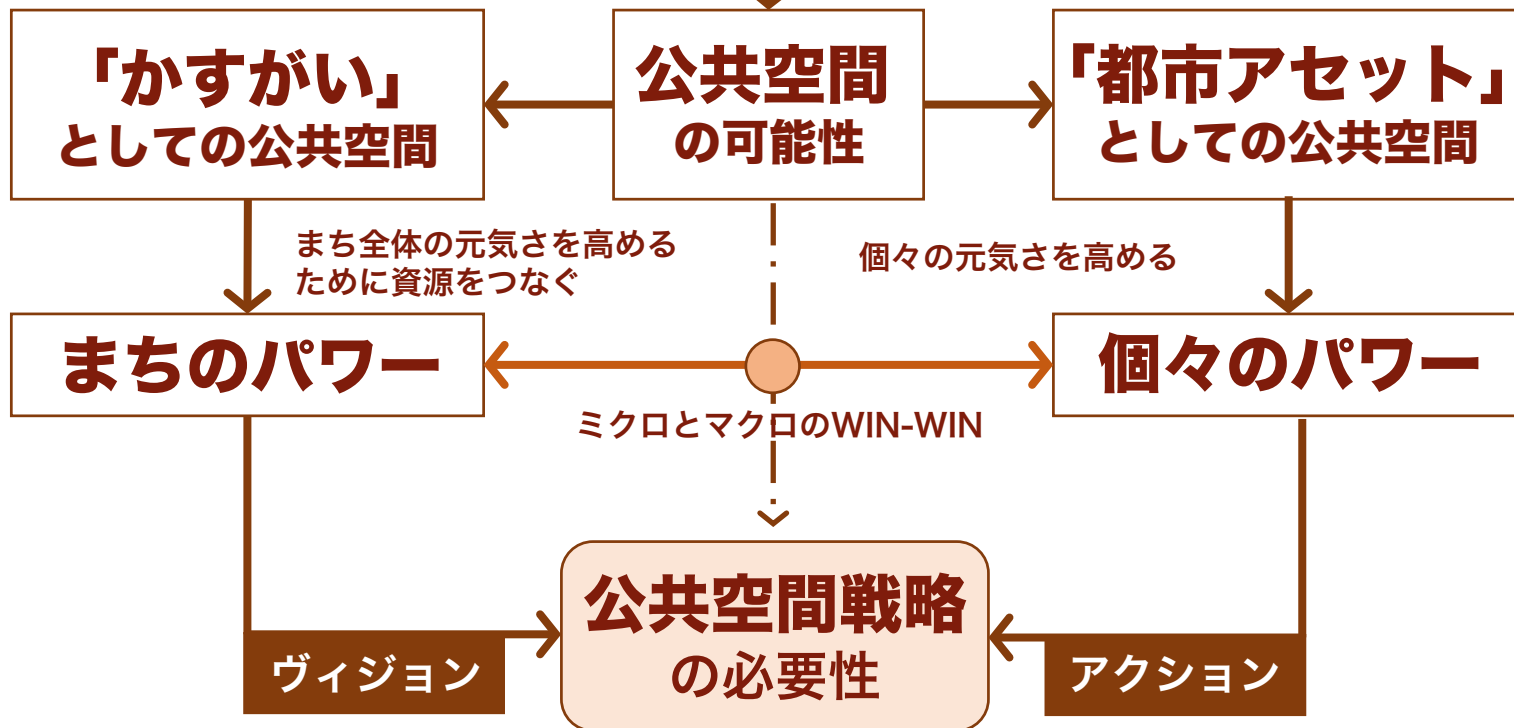
「ツボ」としての公共空間

なぜ、今、公共空間戦略か？

縮減時代・不確実性時代である。

有限な資源への認識
個々の力が弱まっている

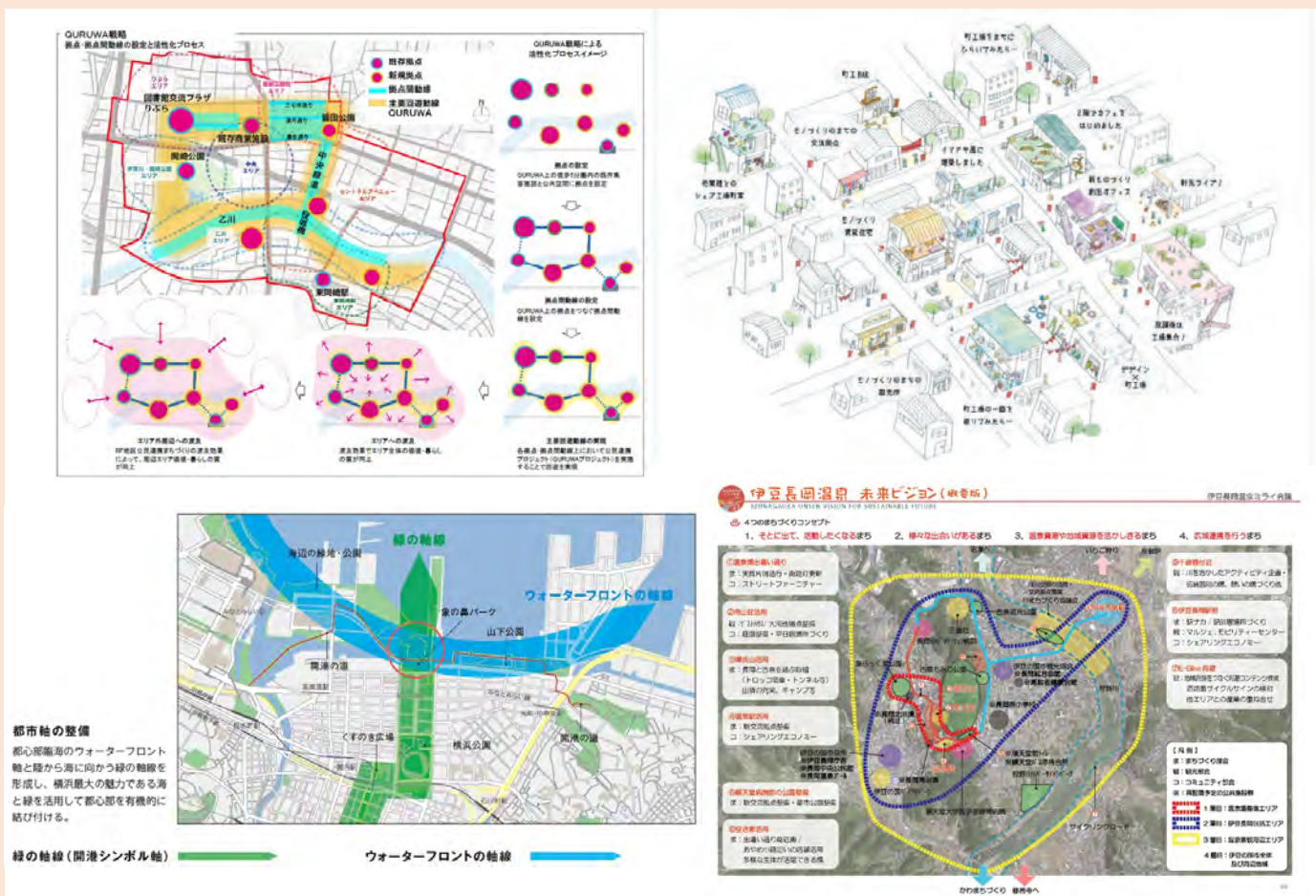
まち全体の「相乗効果」獲得が必要。



個々の活力を高めるためにも、地域（エリア）全体の価値を意識し、両者が相乗効果を生み出すような関係を構築するためのつなぎ手としての「公共空間」とつなぎ方の「戦略」が必要。

目標の共有化の必要性

エリアビジョンが方向性をガイドする



重ね合わせ 戦略

規模を適正に設定し、重ね合わせる。

人口減少数と実際のまちの衰退具合の差（衰退の方が激しい）

⇒出てこないのか、違うところにいるのか、どちらか。

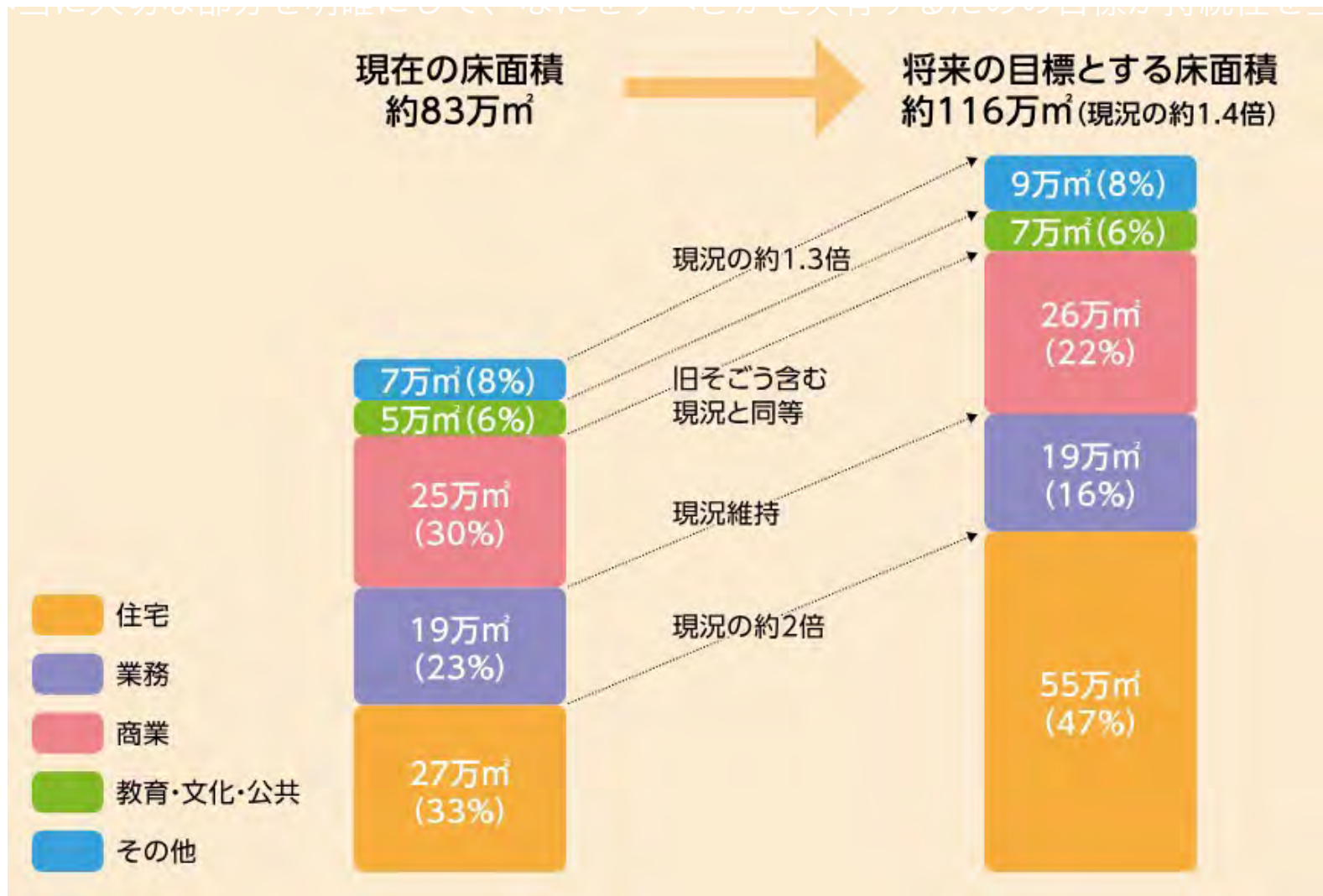
⇒室内をよく見ると、人がいたりする。

⇒イベントをやると、一気に人が訪れる。

⇒どのくらいの活気がどこにどのようにあればよいか？

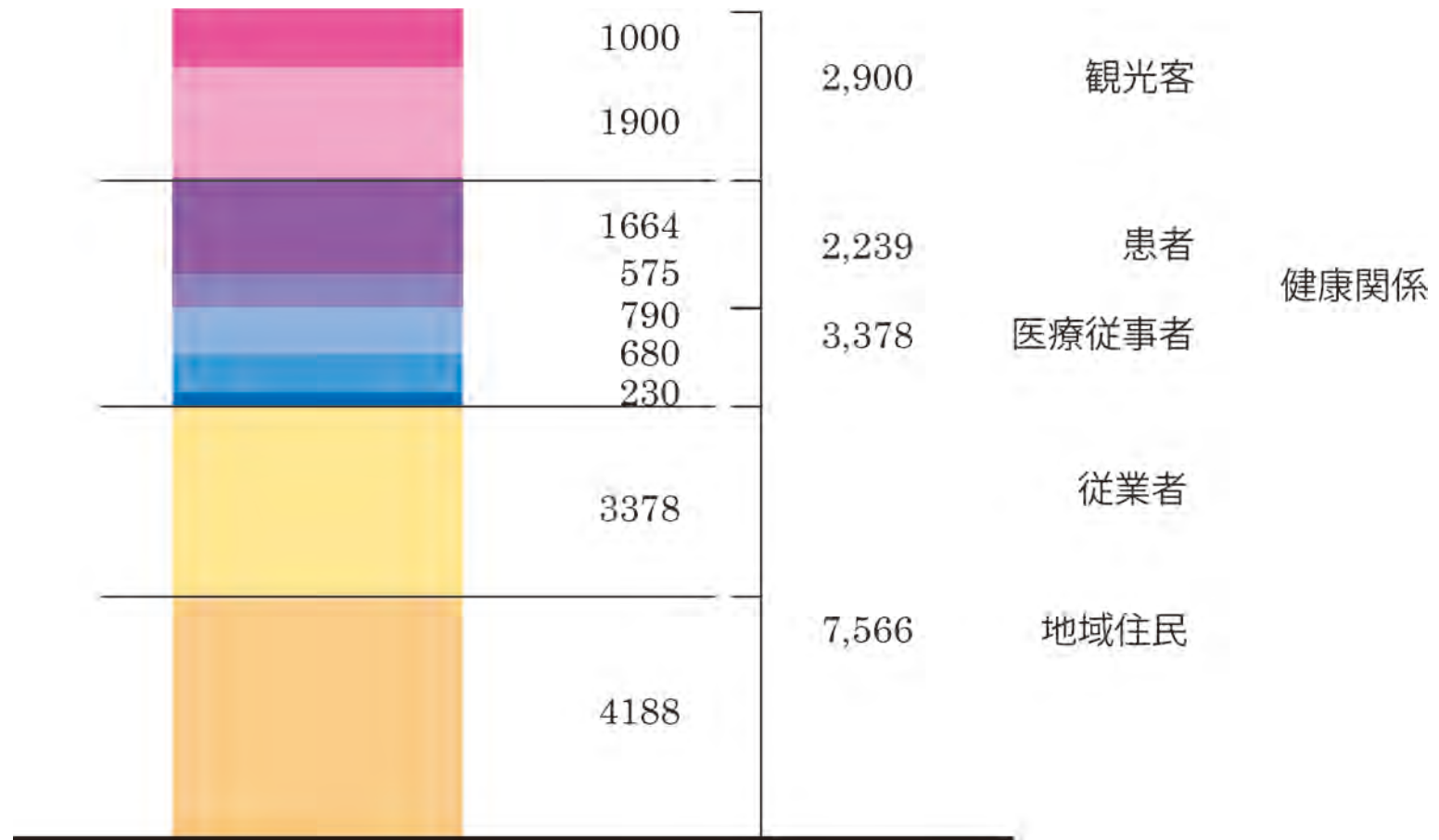
⇒漠然としない。（あまりに現実と離れた）夢を見すぎない。

適正な規模感を考える＝重ね合わせのあるまち 柏駅周辺基本構想における面積数値目標



様々な出会い=重ね合わせのあるまち

伊豆長岡温泉（温泉駅）周辺に潜在的にいる人／一日あたり



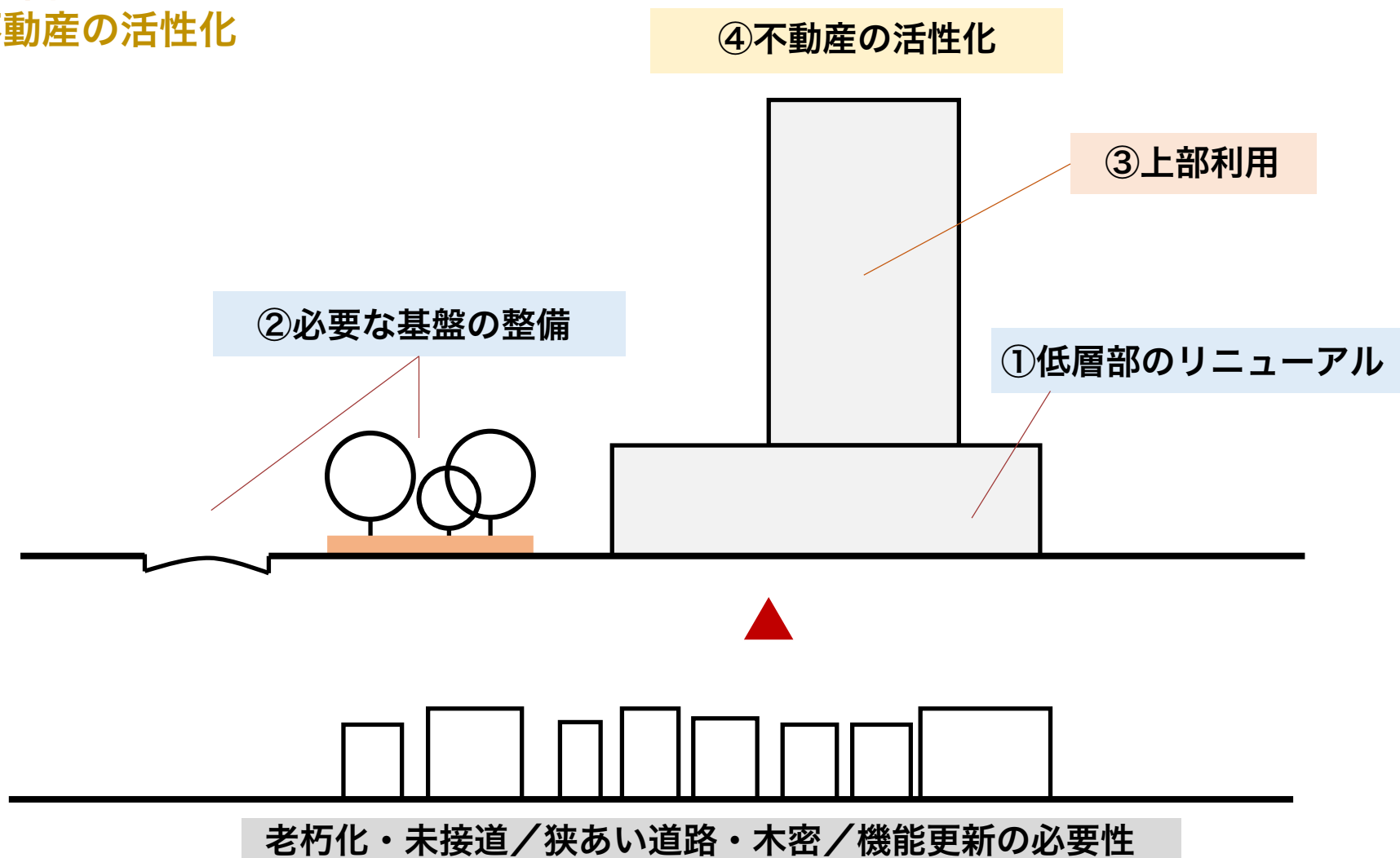
住民：仕事：医療：観光がバランスよく存在している。
⇒伸ばす・維持する／新しい層を加える。

手法5

地域を「温める」。

市街地再開発事業を行う目的・意義

- ① 低層部のリニューアル（不燃化・老朽化解消・合理化・施設整備）
- ② 必要な基盤の整備（道路・公園・広場等）
- ③ 上部利用
- ④ 不動産の活性化



地域の「地力」を超えない開発とする

事業単体の採算を超えた、エリア全体の価値向上を図る

仮に、対象となる市街地再開発の採算が合ったとしても、周辺に波及しない、あるいは、周辺の開発力を吸い取る形となってしまう場合は、地域全体としての価値はもたらされず、公益性も低い(公的資金を入れる理由がなくなる)再開発となってしまう。また、そもそも、再開発が成り立たない状況となっており、過剰な期待は逆効果となる。

- ① 地区・要件を限定し、「適正」規模（地力）を把握する
- ② 供給（量と場所）をマネジメントする
（広い意味での広域的なエリアマネジメント）
- ③ そのためにエリア全体の方向性（ビジョン）およびプラン（地区全体での床供給計画）の必要性
（地区計画が街区計画化してしまっている現状）
- ④ 地域内の資源力（触媒力）を把握する

⇒制度改正（都市機能誘導区域内再開発・特措法改正など）

■市街地再開発事業の課題とこれから

地域全体の（不動産）価値向上の必要性

地域を温める

- ① エリアマネジメントと再開発の併用
- ② 地域全体の生態系を考える
- ③ エリアリノベーションと再開発の併用
建築リノベーション：構造的・機能的・文化的
空間リノベーション：公共（的）空間と「触媒」
- ④ 新旧併存地域（コアとフリンジ）の可能性
開発の隣に資本を還元する
- ⑤ 無理をしない持続型再開発
（身の丈再開発・ローカルディベロッパー）

■市街地再開発事業の課題とこれから

地域全体の（不動産）価値向上の必要性

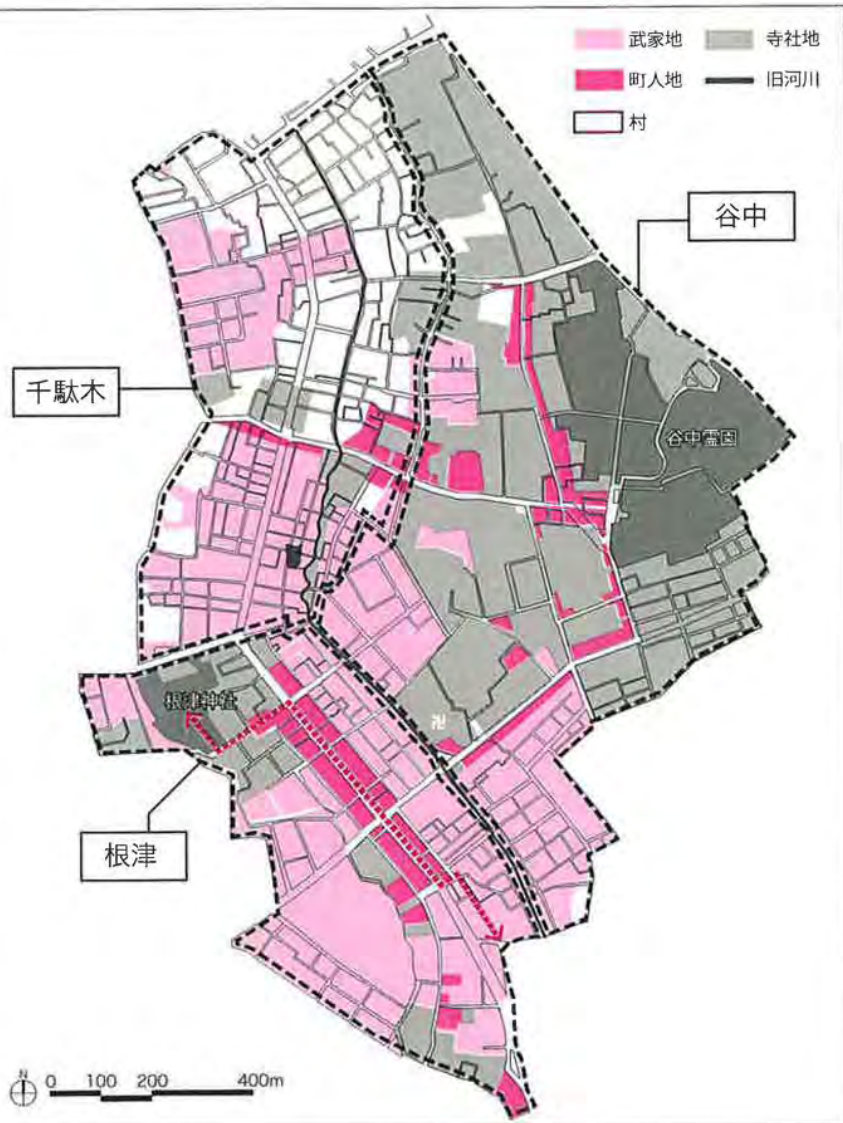
エリアリノベーション・公共空間再生との併用

福井駅前の再開発とエリアリノベーション（福井市）



リノベーション(改修)の集積戦略、谷根千。

- ① 一定エリアの特質を把握する (戦災を逃れた下町の木造建築群)
- ② 小さな再生を集積させることで温める
- ③ 特質を活かす実践 (たいとう都市歴史研究会/HAGISOと「まちやど」/波及)



横浜市関内桜通り（創造都市施策の展開によるエリアリノベーションの波及）

関内桜通りで育まれるネイバーフッド

関内の中心的ストリートである関内桜通りには泰生社が所有・管理する泰生ビル、泰生ポーチがあり、芸術不動産リノベーション助成などを使うことで多くのクリエイターが入居、拠点を構える。
関内まちづくり振興会の活動にエリア内のクリエイターも参加することで、クリエイターが街に馴染まれる存在になりつつある。関内桜通り振興会の会長にオンデザイン代表の西田司が、副会長に Plan-A 相澤敏が就任し、街の活動とクリエイターの活動がより密接に結びつきは始めている。

- リノベ床の使い方とネットワーク
- 使い手による公共空間活用
- まちのリノベーションへ

泰生ビル（泰有社）

I'm home 入居クリエイター
 からこそ BOX
 一級建築士事務所秋山立花
 Fablab Kannai
 NPO 法人横浜コミュニティデザインラボ
 株式会社ビクニックルーム
 株式会社オンデザインパートナーズ
 横浜デザインプロダクション

オンデザインイッカイ

設計事務所オンデザインの打ち合わせスペースとして使われ、業種別ではオフデザインとして様々なイベントやレクチャーなどに使われる。

井三ビル



関内まちづくり振興会主催「関内フード&ハイカラフェスタ」と関内さくらテラスを同日開催

住吉町新井ビル（新井清太郎商店）

アトリエ・ドゥウエル
 合同会社ミタリ設計
 like atelier
 西原尚 **入居クリエイター**



新井清太郎商店がオーナーのビルにアトリエ利用と限定して建築家やアーティストが入居

I'm home（カフェバー）

↑CHA 原崎寛明による設計



横浜西区スーパースタイルスクールの実験の場としても関内テラスを活用

関内まちづくり振興会主催「関内さくらテラス」にオンデザインなどがデザイン・運営などで協力

泰生ポーチ（泰有社）

↑オンデザインによる設計
 shubidua
 NPO 法人ハマのトウダイ
 マツモトコーヒーロースターズ
 旅するコンフィチュール
 SITE BAY YOKOHAMA **入居クリエイター**

さくらハウス

↑オンデザインによる設計

泰生ポーチフロント

トキワビル/シンコービル（泰有社）

CHA 合同会社
 SCALA DesignEngineers
 クラフトワークス
 モ・クシュラ
 有限会社悦計画室
 株式会社 Voids
 Art Connect Yokohama
 アトリエ・モビル **入居クリエイター**

とぎにわ
 古市久美子建築設計事務所
 前田篤伸建築都市設計事務所
 株式会社櫻井淳計画工房
 株式会社クラフトワークス
 株式会社 Voids
 アマミヤデザイン

関内まちづくり振興会

まちづくりの支援組織とともにかわいづくりを行い、徐々に担い手に。

泰生ビル・泰生ポーチ

リノベーションでクリエイター入居

道路のパークフェス

クリエイターによる道路利活用実験

かんないテラス

地域主体の道路利活用の取り組みへ

関内桜通り振興会

通りを中心とした商店街的組織を巻き込んだ展開に

相生町通り

関内桜通り

太田町通り

井三通り



セーヌ左岸マセナ地区（パリ）：オープン街区

歴史文化（地域価値）を活かした再開発

再開発の画一性・個性の問題

歴史的建造物・歴史的文化を継承した形での都市再生をまちじゅうで考える【横浜市】



帝蚕倉庫の復元

帝蚕倉庫事務所棟
(北仲ブロック)の保全

地域全体の（不動産）価値向上の必要性

ローカルディベロッパー育成の必要性

① 既存地権者を育成する

⇒地域の大家・地主が不動産を用いたまちづくりを行うための人材育成・研修

② 地域企業を巻き込む

⇒地域で経営する企業との関係

③ まちづくり会社・エリアマネジメント組織の参入

⇒マネジメント組織の育成（エリマネ・UDC）

④ 保留床を地域で用いる

⇒保留床を地域企業・地域地権者で買い戻す

「地域産業」の視点

床に実質的な価値（使い方）を持たせる

■市街地再開発事業の課題とこれから

実質的な経済を見据える

不動産床で稼ぐのではなく、実質的な産業として稼ぐ

これまでは、必要な事業を行うために、保留床を含めて、容積を販売することで事業費をまかなってきたが、販売先である「需要」が見込めない現在において、床を売るのではなく、実質的な利用に沿った経営を考える必要がある。

- ① 商業や実質的な（モノやサービスの）販売で稼ぐ
⇒事業内だけで単体の採算をとるのではなく、
地域全体に循環するようなモデルの必要性
- ② 「産業」を育てるようなコンテンツとセットとなった
マネジメント
⇒(ex)周辺の農業や食など周辺産業との連携

おおたオープンファクトリー [2012.02~]

町工場の期間限定・無料一斉公開イベントを仕掛ける。



ホーム

イベント概要

オープン工場

スペシャルイベント

案内所/スタンプラリー

お知らせ



JP / EN

おおたオープンファクトリー 2025

「日程」

10.25 SAT

[新田丸・蒲田エリア]
[京急本線エリア]
[京急空港線エリア]など、
大田区内各所にて

世界の技術の行こうのぞきこ



🏭 オープン工場

🎁 スペシャル
イベント

町工場の期間限定・無料一斉公開イベントを仕掛ける（工場オープン）
工場磨き上げプロジェクト/スペシャルイベント/おおたミライブス

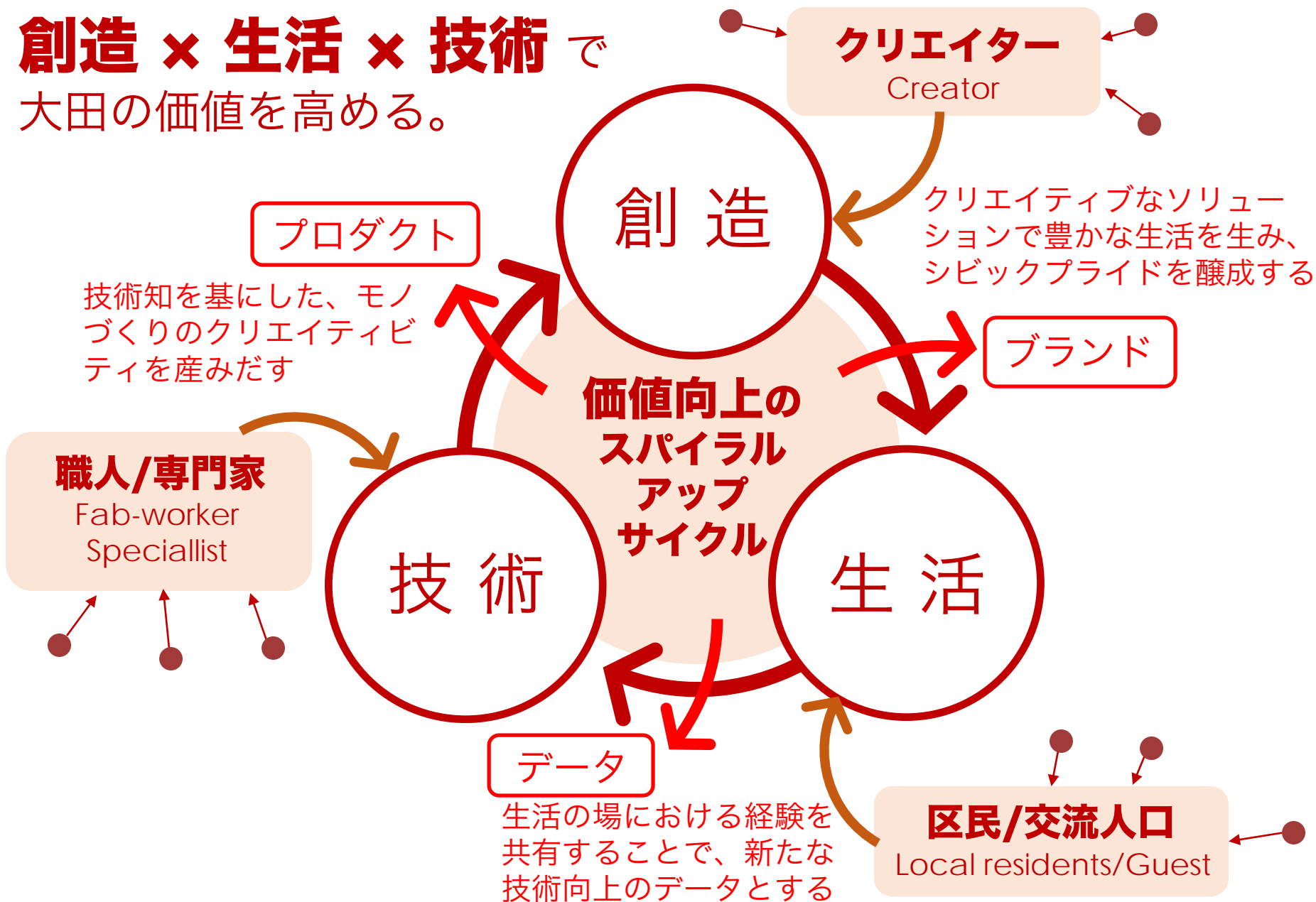
11/28(土) おおたオープンファクトリー2026 開催予定

SCROLL

価値向上 のための おおたクリエイティブタウン構想

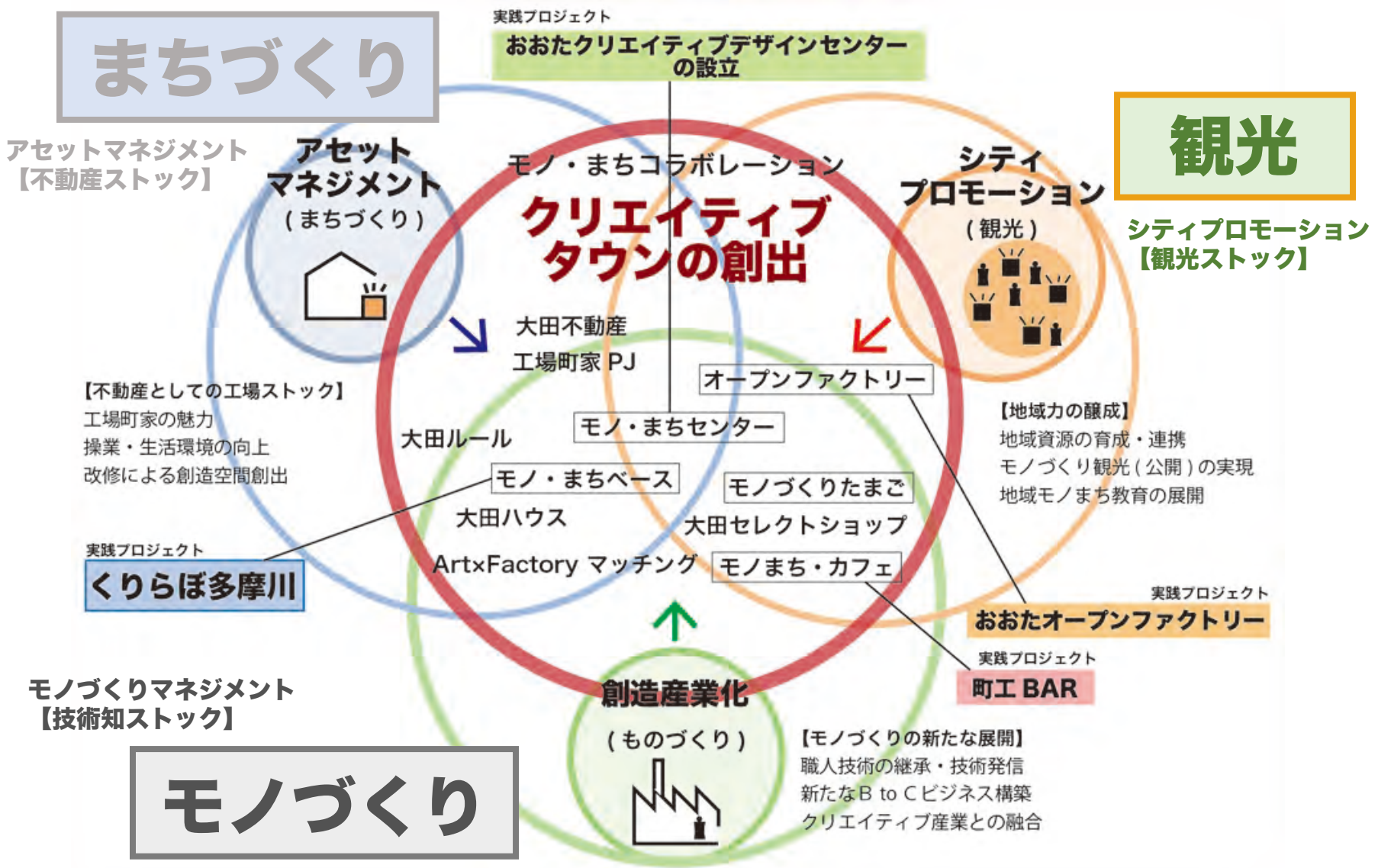
創造 × 生活 × 技術 で

大田の価値を高める。

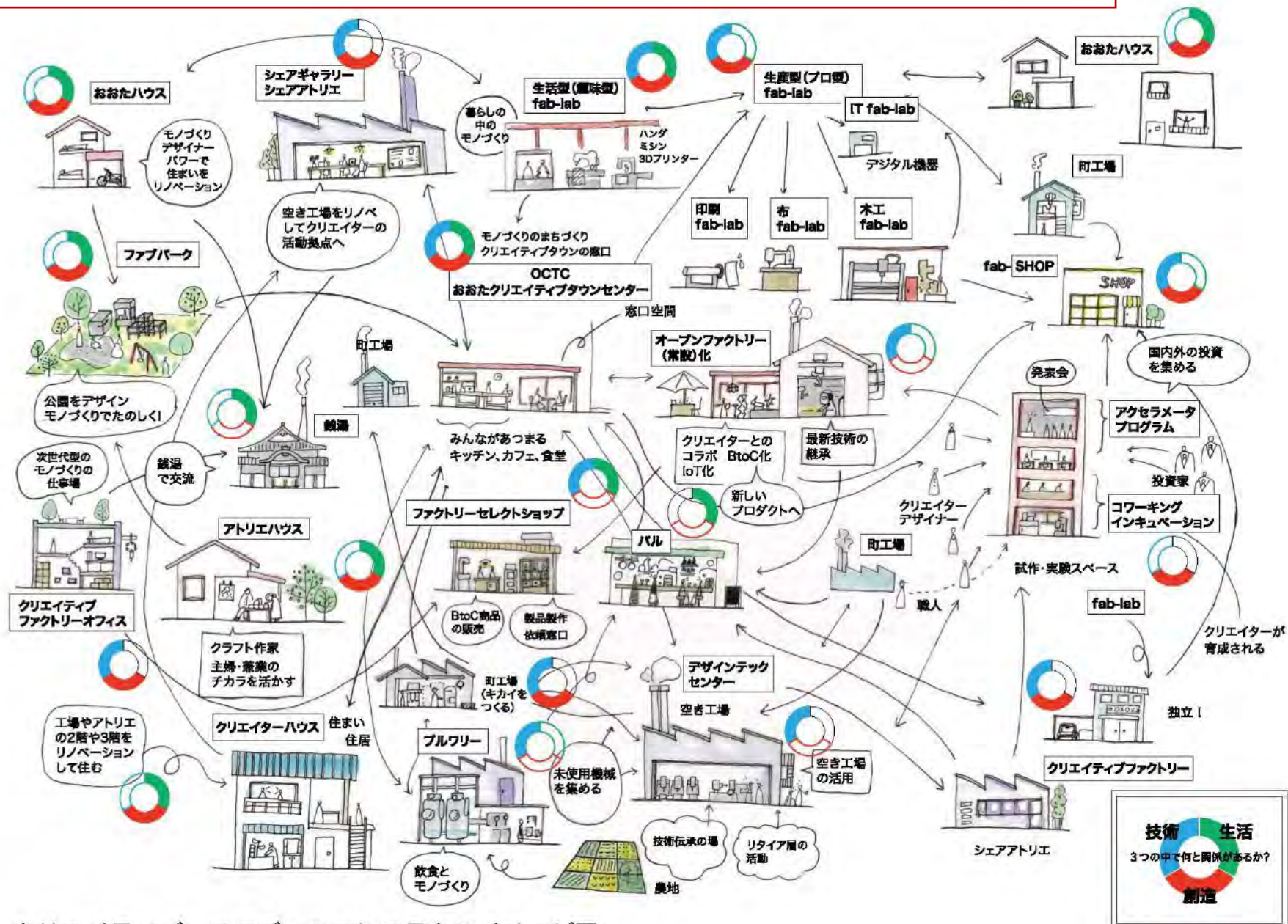


おおたクリエイティブタウン構想を進める **3**つの戦略

モノづくり × 観光 × まちづくり をかけあわせる。



おおた・クリエイティブファブ・エコシステムの創出



クリエイティブ・ファブ・エコシステムのイメージ図

